

優しさが伝わってくる。



工房我楽堂(有)

TEL  
0944(62)6602

代表取締役 橋村 時生 さん

# 夢 追 い 人

竹林とミカン畑に囲まれた  
ところに我楽堂がある。敷地  
内には小川が流れている。  
それに心ませる鳥たちの  
鳴き声…。こうした山川町の  
自然の中で、我楽堂の家具は、  
季節を感じながら、スタッフの  
心のもった手作業の中で、二  
つ生まれていく。







# 「癒」

温かさや風情、自然の

我楽堂の製品には昔懐かしい雰囲気がある。素朴で重厚な質感。ジャズが流れるショールームに並べられてる家具たちを見ていると、実に楽しい気分になれる。

我楽堂では木をとっても大切にすする。使い残す木はない。ケヤキ、ナラ、サクラなど切れ残った小さな部材は小物類の創作に当てる。橋村さんは「私は山育ちですから、木に対する思い入れが人一倍あるのかもしれない。

ませんね。木は長い時間すんなり育ってきたと言うより、風を受けたりして苦労して育ってきています。無駄な物はないと思いますよ。」と語る。

その思いは塗装にも表れている。木の呼吸を妨げないよう塗装も天然素材だけを使う。下地に柿渋、それに漆。塗装だけで丁寧な十二工程費やす。これらが木の面を生かしている。それに数年すると美しい色合いも加わってくる。

橋村さんは、「実用性だけの家具は、だんだんと需要が小さくなっていくと考えています。新築の家の傾向もそうなってきました。昔に比べれば家具の流通規模は大きくなってきましたが、今後は何代も受け継がれるような価値ある家具が見直されてくると思っています。」と話す。安価な輸入家具が台頭してきている今まさにそうだと思う。

我楽堂の創作家具から温かさや風情、自然の優しさが伝わってくる。今のはやりではないが、「癒」される気がする。荒涼としている時代にあつて、こうした存在感のある創作家具は貴重である。

